



2023 年度事業計画

自 2023 年 4 月 1 日

至 2024 年 3 月 31 日

学校法人多摩美術大学

学校法人多摩美術大学事業計画

中長期基本計画に基づく、目標達成のための2023年度の主な事業計画は以下の通りである。

中 長 期 基 本 計 画
(A) 国際的な芸術家、デザイナー、教育者育成の環境整備
(B) 国際交流の推進・制度化
(C) 専門性と総合性の融合を目指した改組による教育改革
(D) 学生受け入れ態勢の強化
(E) 美術大学の教育及び研究内容の社会伝達と浸透
(F) 教育及び研究体制の整備と再点検
(G) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
(H) 社会・地域連携の拡大
(I) 管理運営の強化

(1) 教育・研究運営面の推進計画

◆教務部

【教務課】

- ① 共通教育科目の教育課程の見直し (C)
 - ・リベラルアーツ運営委員会の議論により、総合性を担う共通教育科目の教育課程を見直しする。2024年度を目途に、幅広い教養と今日的な課題の理解に繋がる科目群の開講を大学院と共に目指す
- ② 大学院修士課程の特待生制度の実施運用 (D)
 - ・大学院修士課程の特待生制度の実施運用を着実にいき、優秀な大学院生の確保を目指す
- ③ 大学院修士課程のダブルディグリーの実施検討 (B)
 - ・シラパコーン大学と大学院修士課程のダブルディグリー実施を目指す
- ④ 大学基準協会の認証評価結果への対応 (F)
 - ・2022年度認証評価結果について、3年後の「改善報告書」に向けた課題検討を行う

【入試課】

- ① 入学者選抜の制度を整備し志願者の確保につなげる（継続）(D)
 - ・他大学との主に一般選抜における日程の再調整をする
 - ・国公立と併願しやすい選抜方法の再考
 - ・入試PT等を通じて試験科目・試験時間の検討を提案
 - ・一般方式（学科試験問題）の内容を再検討する（高大接続改革）
 - ・高等学校新学習指導要領に対応した大学入学共通テストの出題教科・科目について検討する
 - ・外国人留学生選抜、大学院修士課程選抜の出願条件の見直し
 - ・大学院修士課程選抜の選考方法の再考と内部進学率の向上
 - ・指定校推薦入試の再検討
- ② 学生募集及び入学者選抜の解りやすい情報提供の改善（継続）(D)
 - ・各選抜ごとにある学生募集要項の構成見直し
 - ・入試概要（本学サイト）や入試ガイド等に変更内容がわかりやすく案内できるよう校正等を行う（継続）
 - ・出願から受験票発行におけるこれまでの不備や問い合わせに多かった内容を学生募集要項に反映させていく
- ③ 一般選抜の運営方法と事務組織の検討 (I)
 - ・業務運営体制の見直し（願書受付～入学手続きまで）
 - ・一般選抜における事務組織の見直し
 - ・一般選抜における実施経費の削減
- ④ 特別選抜、大学院選抜の運営を再検討（継続）(I)
 - ・学事と試験日程の調整
 - ・各選抜での業務運営体制の構築と出願処理作業の見直し
 - ・学内協力体制と業務委託内容（外国語能力）の見直し
 - ・大学院事前面談の運営方法を研究室と共に再検討する

【研究支援課】

- ① 持続的な研究資金獲得を目指し、競争的研究費獲得のための支援体制強化 (F)
 - ・科学研究費助成事業（以下、「科研費」という。）をはじめとする競争的研究費を獲得する教員を増やすため、外部業者による支援サービス、若手教員に対する研究業績の高い教員による相談会などによる支援を行う
 - ・非常勤講師のうち手続きを経た者に対し、特定研究員として研究者番号を付与し、科研費の応募件数の増加を目指す
 - ・研究を推進するため、専門職(URA)雇用も含めた、PDCA サイクルによる支援体制の見直しと強化を行う
 - ・SDGs 等の社会課題に貢献する産学官連携活動の持続的な実施を目指し、産学連携に関する競争的研究費の応募支援及び産学共同研究の契約体制整備を行う

- ② 学内研究活動の支援プログラムの見直しと研究活動の積極的なPRによる研究力の強化 (F)
 - ・学内における学科横断の共同研究制度、科研費の応募件数増加のための奨励費制度など、学内研究費制度の見直しと改善を行う
 - ・競争的研究費を獲得した研究及び産学官共同研究の内容をホームページや成果発表会等によりPRを強化する
 - ・教員の研究派遣制度を設け、研究紀要等への論文投稿や科学研究費助成事業の応募などに繋げていく
- ③ 研究不正、研究費の管理体制及び産学連携に係る各種ガイドラインの遵守によるリスクマネジメント体制の整備 (F)
 - ・教員及び学生への研究倫理教育を研修会、ハンドブック等により実施する
 - ・研究活動及び産学連携活動により生じるリスクに関する教育プログラムを見直し、研究活動の活性化に伴うリスクマネジメント体制を強化する研究費に関するルールの周知徹底、事例集の整備
 - ・研究倫理、安全保障輸出管理、利益相反等に関する啓発活動を定期的にも実施する

◆学生部

【学生課】

- ① 「これからの学生支援に関する方針」に基づく適切な支援の実施 (D)
 - ・学生の修学に関する支援の実施（休退学希望者の状況把握と対応、欠席過多や成績不振の学生の状況把握と指導、障がいのある学生に対する修学支援）
 - ・課外活動（クラブサークル）や学生主体の学事（芸術祭等）を充実させるための支援の実施
 - ・学生の住環境に配慮した適切な支援の実施（学生寮の運営等）
 - ・学生生活やコロナ禍における実態を把握するための調査の実施
- ② 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮 (D)
 - ・学生課・保健室・学生相談室間の連携強化
 - ・保健室による健康相談・感染症対策などの情報発信の充実
 - ・合理的配慮を必要とする学生にとっての満足の高い対応
 - ・学生の相談に応じる体制の整備（学生相談室の相談対応、学生のための法律相談実施、ハラスメント防止のための体制の整備）

【奨学課】

- ① 奨学金その他の経済的支援の整備、授業その他の経済的費用に関する情報提供 (D)
 - ・本学独自の給付型奨学金・授業料減免制度の整備と情報提供。
 - ・日本学生支援機構奨学金の適切な運用と情報提供。
 - ・ワークスタディ奨学金の運営強化

- ・地方公共団体・民間奨学金の積極的な情報提供とエントリー指導による応募者や採用者数の増加

◆国際交流センター

- ① 新規海外協定校の増加（継続）（B）
 - ・Cumulus(国際美術・デザイン・メディア大学連合)の加盟により、国際的な本学知名度向上
 - ・国や地域のバランスを考慮した上での、新たな海外協定校の増加
- ② 海外大学への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ等の増加（継続）（B）
 - ・海外協定校の増加および交換留学を実施していない海外協定校との、交換留学実施
 - ・交換留学制度だけでなく、共同授業・ワークショップの実施
- ③ 学生が留学しやすくなる制度設計（継続）（B）
 - ・交換留学派遣時期の多様化
 - ・オンラインによる海外プログラムの実施
 - ・学生に対する英語検定試験受験料一部補助
 - ・本学留学希望学生のチーム作りおよび他大学とのネットワーク構築
- ④ サポート体制の充実（継続）（A）
 - ・外国人留学生に対する英語・中国語・韓国語での対応
 - ・外国人留学生に対する本学 web サイトおよび SNS を活用した情報提供
 - ・各部署・研究室からの依頼に対するサポート向上
 - ・コロナ禍における外国人留学生来日にかかる情報収集・提供
 - ・英語力向上を求める学生に対して、勉強方法指導・英会話の場を提供
- ⑤ 外国語に接する機会を増やす環境づくり（継続）（A）
 - ・国際交流パンフレット（英文）作成
 - ・国際交流ラウンジ活用方法の検討
 - ・国際交流パーティー実施による日本人学生と海外留学生の交流促進
 - ・英語力向上を求める学生に対して、海外におけるアートやデザインの生の声を聴ける機会の提供

◆キャリアセンター

- ① キャリア支援の多様化（継続）（D）
 - ・キャリア支援システム「タマキャリ」登録者数を在校生の60%（コロナ前の就職希望者割合）とする
 - ・キャリア相談の諸問題の解決に向けた取り組み
 - ・アーティスト支援の講座の開催
- ② 教員との連携強化（継続）（D）
 - ・キャリア支援委員に限らない教員コンタクトを実施

- ③ キャリアセンターの認知度向上 (D)
 - ・低学年向けガイダンスの実施
 - ・多様なガイダンスの実施
 - ・キャリアセンター広報活動の実施
- ④ 外国人留学生への進路・就職支援配慮を要する学生進路・就職支援 (継続) (D)
 - ・外国人留学生向けガイダンスの実施
 - ・配慮を要する学生のデータ部内共有

◆附属図書館

- ① 中長期的な新しい図書館像の検討 (継続)
 - ＜学内外のニーズを探り、新たな図書館像の明確化を目指す＞ (F) (H)
 - ・大学中長期計画の社会人の学び直しに対応するため、卒業生を含む学外者の利用を分かりやすくルール化する
 - ・見学・撮影についての新たなルール作り
 - ・大学の中長期計画における STEAM 教育の一翼を担う資料、外国語や留学生向けの資料、キャリアやメンタルヘルス関連の資料の充実をはかる等、芸術を中心としたバランスの良い蔵書構築を目指す
 - ＜職員構成を考える＞ (G)
 - ・高度なサービス・図書館業務の専門性に見合う職員構成とその育成
- ② サービス (継続)
 - ＜利用者サービス(中長期計画における施設の充実と利用しやすさの推進)＞ (G)
 - ・利用の実態調査や統計の見直しを図る
 - ・上記を踏まえ、ガイダンスの再考(対面とウェブ両方)、授業連携の呼びかけ、web コンテンツの充実で利用者教育と利用者サービスを結ぶ
 - ＜展示を活用した図書館資料のPR＞ (G)
 - ・貴重書(美術参考資料費での購入資料も含む)展示し、解説をnoteとしてアーカイブ化する
 - ・テーマ展示(閲覧スタッフ・学生との協働)
 - ＜教員・研究室との連携＞ (G)
 - ・学科推薦図書の定期的なメンテナンス
 - ・授業連携・研究室単位のガイダンス
- ③ 発信と協働・連携(継続)
 - ＜図書館活動に関する情報公開＞ (G)
 - ・ウェブサイトからの情報発信と情報公開の強化
 - ・『言語と美術コレクション』公開と運用
 - ＜利用者の意見を反映する仕組み作り＞ (G)
 - ・アンケート・投書箱などによる意見集約と改善
 - ・委員会などを通じた意見の収集とフィードバック

＜他部署との協同・連携＞(E)

- ・他部署との連携及びリポジトリの運用

④ 運営・管理

＜中長期計画における上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携のための両館の設備の更新と検討課題確認＞(G)

- ・図書館システム更新、機器設備の更新の準備
- ・上野毛キャンパス新棟と上野毛図書館との連携
- ・書庫狭隘化対策の検討

＜運営・管理の円滑な推進＞(G)

- ・日々の図書館運営を滞りなく行う(業務委託を含む)

◆附属美術館

① 収蔵作品調査及び目録作成（5箇年計画4年目）(F)

- ・多摩センター美術館収蔵の未調査分と、従来より八王子キャンパスに収蔵していた、2000～2500点を作品調査。撮影及びコンディションチェック

② 博物館実習 (D)

- ・本学学生約100名を受け入れ、博物館学芸員資格取得に必須となる実習を行う

③ アートテークギャラリー運営 (E)

- ・約30の展覧会実施サポート
- ・施設利用に関する安全面、衛生面に関する取り組みの徹底
- ・関係機関と連携した情報発信サポート

④ 作品データベース構築 (G)

- ・実見調査により付与された、管理番号のデータベースとの統合
- ・データベースのウェブ一般公開までに必要となる運用を、レコード(50～100点程度)をテストケースに実装し、フィードバックを行う
- ・紙台帳の整理、管理番号との紐付け
- ・職員の利用促進(セキュリティ対策なども含む)

◆附属メディアセンター

① 事務室

- ・Adobe Creative Cloud 利用促進支援(継続)(G)
 - (a) 新入生の利用登録作業を円滑に行う(メールアカウント付与を行う情報推進課との連携)
 - (b) 在学生への利用方法周知・ホームページでの案内等の内容見直し
 - (c) 初心者向けのセミナー(Adobe社)・講習会(外部に依頼)の実施
- ・コンピュータスタジオの環境整備
 - (a) サポートスタッフの教育・自由利用の促進及びサービス向上
 - (b) 機材(音響関係等)の整備

② 情報センター (G)

- ・ サーバの更新 (@tamabi ver.6)
 - (a) 新システムの詳細設計
 - (b) 新システムで変更された運用方法の習得
 - (c) P 新システムで強化された機能の活用および告知
- ・ 八王子キャンパスのデザイン棟、絵画北棟、絵画東棟ネットワーク強化補助
- ・ 情報ネットワークの人事、部署再編、外注化などを前提にした新体制の検討

③ 映像センター (G)

- ・ 映像スタジオの施設・設備の管理運営
 - (a) 学生の制作（映像編集、3DCG 制作等）を支援するため、高スペック PC を増設する（1 台）
 - (b) 使用する学生の多い学科でどのようなソフトウェアが使われているか調査し需要を調べ環境を整える
- ・ 対面サポートと感染症対策
 - (a) 2019 年以前の対応に戻していく動きが見られる中で、依然感染症対策として映像スタジオや貸し出し機材の消毒はこれからも続けていき、対面でのアドバイスや初心者向けワークショップの再開を試みる
- ・ FabCAVE との連携(3D オブジェクト作成・修正)
 - (a) 3D オブジェクトの作成、データの修正、3D サポートし FabCAVE と連携を図る
 - (b) 前年度、3D プリントまでの連携で起こりやすいミス修正の解説動画・プリントの作成
- ・ メディアホール・撮影スタジオの管理運営
 - (a) メディアホールの修繕完了に伴い、各科・部署に予約制で貸し出し、倉庫内の備品等の確認と把握に努め、センターで共有する
 - (b) メディアホールの照明・音響機材の確認と使用資料の制作をし確実に対応できるようにする
 - (c) 撮影スタジオの経年劣化に対応した改善

④ 写真センター (G)

- ・ 施設・機材の有効活用
 - (a) 管理施設・機材の各科授業への提供
 - (b) 一部授業については講習と実習をサポート
 - (c) 授業以外の時間帯は学生の自由使用時間とし、制作に必要な施設・機材を提供
- ・ 講習会の開催
 - (a) 写真制作に必要な知識や技術の取得、また施設・機材の有効利用のため各種講習会（施設利用資格取得 3 種 / 知識・技術系 5 種）を開催
 - (b) 定期講習で補えない相談や希望については個別で随時対応

- ・貸出機材の更新
 - (a) 主にデジタル関連機材を拡充。フィルム関連については現状を維持。
 - (b) ミラーレスカメラシステムの旧機種の入替え及び拡充
- ・施設・設備の更新と維持
 - (a) 各施設・設備の定期メンテナンス
 - (b) スタジオライティングソース拡充(3 灯体制)、フラッシュアクセサリーの追加、インクジェットプリントスペースの拡大（プリントブースを2 ブースに増設）
- ・カラープリント暗室の運転終了
 - (a) カラープリントプロセッサの継続的メンテナンス及びカラー現像薬品の流通状況に鑑み、カラープリント暗室は2023 年度末を目処に通常運転を終了とし、以降のカラープリントは、要望に沿った限定的な対応へ切り替える

⑤ 工作センター (G)

<八王子>

- ・第三者機関による安全衛生診断に基づき安全第一の運営を行う
 - (a) 利用時間・方法
 - ①. 全学的な利用時間を決め、学年ごとの利用時間の区切りをないものとする
 - (b) 工作機械の使用条件
 - ①. 工作機械を使用する際は、事前に説明会・講習会等を受講させ、工作センターの仕様にあった加工方法で安全に使用させる
 - ②. これまでの改善により工作機械の安全性は向上したが、学生の単独使用不可の危険性の高い工作機械については予約制とし、工作センタースタッフが立ち会いのもと使用させる
 - (c) 工作センターではさまざまな学科の授業実習科目・課題が行われており、利用者の傾向に応じて既存の使用システムを再検討するとともに、引き続き、新しく安全性の高い工作機械の導入等のための情報収集を行う

<上野毛>

- (a) 塗装ブース排気ファン及び屋外モーターの更新工事
 - ①. 5 台ある塗装ブースのうちの1 台について、屋外機械部品の更新をする
- (b) NC ルーターの導入
 - ①. 大型NC ルーターを導入し、CAD データから合板等の平面部材の切出しが可能とする他、加工範囲も大幅に拡大させる
- (c) 備品の貸し出し開始
 - ①. 制作に必要な備品の品目を精査し、貸し出しを開始する
- (d) 依頼加工の開始
 - ①. 学生が自力で加工が困難な作業を依頼加工として受託し、納期予定は最短で1 週間程度とする

⑥ CMTEL (G)

・基本計画

- (a) 「素材の資料館」として、Color (色)・Material (素材)・Trend (傾向)の情報収集、発信を行い、学内だけでなく学外のクリエイター、企業へ向けて開かれた施設運営を目指す
- (b) 学生が新しい素材・制作方法に巡り合うきっかけを提供することに重きを置き、相談窓口を設け、展示やイベントを企画することで、学生が自身の創作に適した素材を探し易い環境をつくる

・展示収蔵品の収集、充実、管理

- (a) 素材、資料、トレンド資料の収集、既存展示品、参考作品の更新・追加
- (b) 既に提供いただいている素材を目につきやすく手に取りやすい配置・展示方法を模索する

・学生サービスの充実

- (a) 学生の制作活動に対するサポート（制作相談窓口／制作の手助け／企業への問い合わせ）
- (b) 全学生対象に、ワークショップ、トレンドセミナー等、素材や技術の知識を育めるようなイベントを開催する
- (c) 導入機材の事前レクチャー、利用予約体制見直し
- (d) 学生向け CMTEL 見学ツアーの開催（学科単位・研究室対象等、要望があれば随時実施）

・学内、学外へ向けた広報活動

- (a) 広報ツールを制作し活用する（パンフレット制作・ホームページに加え、CMTEL NEWS 発行・発行・Twitter や Instagram からの情報発信）
- (b) 学外見学者、企業、利用者受け入れ
- (c) オープンキャンパスイベントの実施
- (d) 学校見学者へ向けたワークショップの実施（中学生、高校生対象／要請があれば随時）

・授業・他部署・研究室への協力

- (a) 施設の授業利用（貸切可能）
- (b) マテリアルサンプル貸出（研究室単位、教員または学生（講評会の参考用）への貸出）
- (c) 授業・ゼミ向けワークショップ・レクチャー開催（要望があれば随時実施）
- (d) 各学科・部署への制作依頼・展示の協力（オープンキャンパス展示等）

⑦ F a b C A V E (G)

・ファブリケーション施設運営

- (a) 初心者に対する、3D プリンターやレーザー加工の制作支援を行う
- (b) 適宜、各機器に関する講習会を行う
- (c) Anduino や Raspberry Pi などの制作物への組込み支援も行う

- ・映像センターとの連携（3Dオブジェクト作成・修正）…3Dデータを作成できるソフトウェアを持っていない学生に対し、映像センターにある Blender や ZBrush などの入ったPCで3Dオブジェクトを作成してもらう
 - ・各棟ギャラリー展示のVRアーカイブ化
- ⑧ 上野毛スタジオ (G)
- ・運営方針
 - (a) 上野毛スタジオが管理する5つのスタジオ施設を主体として、制作環境を学生に提供する。また機材スタジオを整備し、各科授業及び学生に機材を提供し、有効活用してもらう
 - (b) 各スタジオは予約制のスタジオと自由使用のスタジオとし、制作に必要な機材貸出を行う
 - ・講習会の開催…各スタジオの利用・制作に必要な知識や技術について、講習会を開催する
 - (a) 写真スタジオ（ストロボ撮影等）
 - (b) 撮影スタジオ（LED 定常光照明の撮影等）
 - (c) 録音スタジオ（録音とミキシング等）
 - (d) 映像スタジオ（照明、バトン、PA 等）
 - ・機材の整備…統合デザイン学科と演劇舞踊デザイン学科の2学科と相談の上、上野毛スタジオにとって必要な施設、機材を整備する

◆附属アートアーカイブセンター

【事務室】

- ① 資料活用 (F)
 - ・授業利用の促進
 - ・資料閲覧の促進（主に本学学生・院生の利用促進）
 - ・研究の促進（科研費や学内共同研究支援）
 - ・資料展の開催
 - ・外部機関への資料貸し出し
- ② 資料整理 (F)
 - ・AAC 所蔵の資料体【秋山邦晴資料、安齊重男フォトアーカイブ、大野美代子アーカイブ、勝見勝アーカイブ、加山又造アーカイブ、北園克衛文庫、佐藤晃一アーカイブ、瀧口修造文庫、三上晴子アーカイブ、もの派アーカイブ、文様アーカイブ、山名文夫アーカイブ、横山操資料、和田誠アーカイブ、DNP ポスターコレクションなど】の管理
- ③ 資料の収集拡充 (F)
 - ・秋山邦晴資料、東野芳明資料、安齊重男フォトアーカイブ、もの派アーカイブ等
- ④ 活動内容および研究成果の学内外への発信 (E)
 - ・AAC 研究紀要5号制作（リニューアル）
 - ・AAC 案内リーフレット制作（リニューアル）

- ・年3回以上の資料展開催（主催および協力）
- ・第6回 AAC 主催シンポジウムの開催（12月2日予定）
- ・学生の利用促進を踏まえたオリジナルサイト、SNSでの情報発信
- ・資料展やシンポジウムの学内外広報（メディア対応含む）
- ⑤ 和田誠アーカイヴ資料貸し出し（E）
 - ・和田誠展（巡回展）に貸し出した資料約350点のAACへの返却対応
 - ・展覧会のための資料貸し出し
- ⑥ 収蔵庫の環境整備（IPM構築）（G）
 - ・温湿度管理、清掃、整理整頓の徹底
 - ・専門知識の習得と関係部署との連携強化

◆生涯学習センター

- ① 本学の持つ潜在的な力、リソースを活用した生涯学習プログラムの企画立案（H）
 - ・本学教員の取り組みや研究内容を活かせる講座の実現
 - ・特色あるシリーズ講座（こども講座「あそびじゅつ」、対談講座「TAMABI トーク・ラウンジ」、大規模講座「〇〇世紀の芸術家列伝」、「宅配便あそびじゅつ」等）の継続的な開催と今後の展開に向けての検討
- ② 社会や地域への教育研究内容の伝達と浸透を目的とした生涯学習プログラムとしての情報発信の拡充（H）
 - ・活動内容の継続的な記録と発信
 - ・新規の層にアプローチするための広報計画見直しと策定（SNSの導入、公式HPリニューアルの必要性の検討）
- ③ 教員にとって研究・教育の一助となる機会や検討の場の設置（E）
 - ・単なるアウトプットに留まらない、教員や大学への将来的な還元となる講座企画の提案
 - ・研究会の立ち上げ、研究成果の実践の場としての講座構築
 - ・上記の機会に、学生も関与・享受できる仕組みづくり
 - ・中高生に向けた講座等、新規事業立ち上げに多くの教員・学科が関われる仕組みづくり
- ④ 生涯学習センター年史〈仮称〉の発行など、活動記録の取りまとめとデータベース化・アーカイブ化へ向けての検討（E）
 - ・発足から現在までの記録および理念をまとめた年史の発行により、学内外に活動を周知
 - ・上記をふまえ、センターとしての今後の新たな方向性を見出す
 - ・中期的に、実施成果のデータベース化・アーカイブ化を検討
- ⑤ 安定したセンター運営体制の継続、および社会状況に即した機動性のある運営システムの構築（H）

- ・多様化した講座形式（対面講座、オンライン講座、オンデマンド講座、宅配講座）を支える、安定した運営体制の整備
- ・社会変化に対応し得る、柔軟な運営システムの構築

◆アートとデザインの人類学研究所

- ① 2023年度に新組織として再スタートする「アートとデザインの人類学研究所」では芸術のもつ可能性を人類学的な視点から捉え直すとともに、人間の表現の根源を探究し、広義の地球環境（動植物との関係や災害などの気象変動も含む）としての「土地の力」を再発見する（E）
- ② 本学における人文諸科学的な叡智を結集する場として、学内研究事業と連携をはかりながら、授業、研究会、シンポジウムの開催などを通じて、領域横断的に本学のアートとデザインを結ぶ拠点として活動を展開する（E）
- ③ 科研費等をはじめとする外部資金獲得に向けて組織的に討議を重ね、その規模を拡大しながら外部資金獲得を目指していく（F）
- ④ 海外研究機関、研究者との協働により、近年ますます注目を集めている「Art Anthropology」「Design Anthropology」の学問分野において、今後国際的な研究拠点となるような研究体制を整える（A）

(2) 管理運営面の推進計画

◆大学戦略室

- ① 学校経営に関する企画と提案（C）
 - ・「世界に存在感のある大学となる」という理事長ミッションに対して、具現化のためのアクションプラン策定による目標設定の提案
- ② 財務運用の検討（I）
 - ・リスクを考慮しつつ、運用益のより高い運用を目指す
- ③ 大学史資料の整理・活用及び今後の大学史編纂に向けた準備（E）
 - ・上野毛キャンパス3号館、図書館地下倉庫、講堂、美術学部事務室、八王子キャンパスアーカイヴセンターに分散している資料の確認と整理
 - ・既存資料保存方法とデータベース化の検討
 - ・学内資料・刊行物調査と整理方法及び学内資料保管方針の検討
 - ・他大学の大学資料室、大学史編纂の調査(小規模～中規模)を行い、大学戦略としての大学史関係資料の活用方法を検討
 - ・大学史資料委員会の設置を検討し、「教育史・日本近現代美術史など」の研究者を中心に、各専門分野の教職員との協力体制を整備する

◆広報部

【広報課】

- ① 入学試験に関する市場調査ならびに諸統計などの収集・分析 (E)
 - ・高等教育に関する情報収集、分析、調査、統計を行い基本情報の整備
 - ・学内入試統計情報の分析が行えるデータベース構築
 - ・入学試験に関する市場の調査並びに諸統計等の収集、分析、作成による、入試並びに入試広報に対応した提案

- ② 学生募集に関する企画と提案 (E)
 - ・志願者数の確保とともに、多様かつ優れた学生獲得に向けた選抜プランの作成と提案
 - ・志願者の数と質のアップ（最低目標＝実数で対前年 100%以上、努力目標＝総数で 110%以上、教育成果の出やすい層の獲得）
- ③ 広報メディアのクオリティアップ (E)
 - ・各ステークホルダーとのコミュニケーションフロントになる WEB サイトを再構築し、ブランド発信のコントロールタワーを確立
 - ・「世界に存在感のある大学となる」ためのブランディングメディアの確立（海外向け WEB サイト／冊子）
 - ・志願者獲得につながる本学媒体の制作「大学案内」「入試問題集」【高大接続課】
 - ・志願者獲得と大学の価値浸透につながる本学媒体「TAMABI NEWS」「サブパンフ」等の制作
 - ・志願ターゲットにあわせた SNS やアプリ、各種紙広告媒体への出広
- ④ 大学広報の強化 (E)
 - ・志願者数の確保とともに、質の高い学生獲得に向けた、オープンキャンパス、進学相談会、高校ガイダンス、学校見学や高校訪問の実行【高大接続課】
 - ・21 世紀の美大イメージの確立による大学のブランド価値向上にむけた取り組みプランの作成と提案【メディア戦略課】
 - ・パブリシティ獲得にむけた情報発信【メディア戦略課】
 - ・番組制作やテレビ CM 等、メディア各社の対応【メディア戦略課】
 - ・六本木デザイン HUB (TUB) を活かした広報戦略立案

【社会連携課】

- ① 社会や地域との共創、アートやデザインによる社会課題の解決や、学生の創造的学びに資する社会連携活動の実施 (H)
 - ・団体・企業・地域などと共働・共創し、新たな価値を生む社会連携プロジェクトにするためのディレクションに力点を置く
 - ・地域社会との連携・社会貢献活動として地域の大学コンソーシアムへ参加し、取り組みを実施
 - ・文化芸術施策を掲げる東京都や、包括協定締結の山梨県などと協力関係を保ち

広域連携をリードする

- ・TUB 等を活用し、取り組み・成果を積極的に発信
- ② 多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム (TCL) の運営と情報発信 (E)
 - ・プログラムのアップデートとともに、社会実装までを支援できる場を形成し、プログラムの多層性・総合的ブランド力へ還元できる仕組みを構築
 - ・本カリキュラムから派生する、オンライン講座や各種イベント、企業向けプログラムなどの新たな試みを展開
 - ・TCL の目指す価値創造の周知に資する情報発信の実践
- ③ 東工大・一橋大との「価値創造人材育成拠点の形成事業 Technology Creatives Program (テックリ)」の実施と展開 (E)
 - ・5 か年計画の3 年目 (開講 2 年目) として、東工大・一橋大の担当教員と共に各パートのより有機的な繋がりにより、プログラムを進展させる
 - ・国際的な視野のもと、社会変容の中で求められる人材育成をリードすべく、国内外の動向や要請を踏まえた調査研究を展開
- ④ SDGs 時代の廃棄物循環型 社会・経済モデル実現へ向けたサーキュラーデザイン関連の取り組みの推進 (H)
 - ・共創プロジェクト「すてるデザイン」の推進と運営への支援
 - ・サーキュラーデザインに関する研究領域の充実化および研究施設等の立ち上げ

◆総務部

【総務課】

- ① 事務組織の見直しによる体制の確立 (I)
 - ・理事長及び理事の意思決定サポート体制の整備
 - ・事務組織におけるガバナンス体制の再整備
 - ・各委員会組織の権限・位置等の再点検
 - ・現行規程の点検・改正及び制定
 - ・出資会社の運営
- ② 働きやすい職場環境の整備 (I)
 - ・行動計画 (次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法) 実現に向けた対応
 - ・ワークライフバランスの推進
 - ・情報共有化に向けた学内体制の整備
- ③ 危機管理体制の確立 (I)
 - ・危機管理上の課題に対する検討
 - ・災害時マニュアルの見直し、周知
 - ・避難訓練の実施
- ④ 上野毛キャンパスの再整備 (I)
 - ・駒沢通り拡幅にかかる世田谷区との折衝サポート
 - ・新棟建設に向けた各種調整業務

- ・施設・設備・備品管理の円滑な実施
- ・八王子キャンパスとの連携

【庶務課】

- ① 施設・設備の改修整備、及び大規模工事に伴う学内情報共有・提供 (G)
 - ・GHPエアコン機器更新 (メディアセンター2F, 本部棟 2F の一部)
 - ・EHPエアコン整備・機器更新 (メディアセンター4F, 本部棟 1F の一部)
 - ・ファンコイルユニット更新工事 (絵画北棟 1. 3. 4F, 絵画東棟 B3F・1F 食堂, デザイン棟 2F, 工作センター)
 - ・必要性に応じた施設の各種修繕
 - ・大規模工事に伴う学内情報の共有・提供を図り、授業期間中での工事も並行実施ができるようにする
- ② 省エネルギーに伴う管理及びLED 推進・段階的整備 (G)
 - ・第3期：実習棟におけるLED 照明への段階的整備 (情報・芸術学棟、工芸棟・テキスタイル棟、外灯の一部)
 - ・第4期：廊下でのLED 化工事の試験的实施 (メディアセンターB1F～4F)
 - ・省エネルギーに向けての学内状況分析・見直しの継続的検討と実施
 - ・省エネ対策と並行してCO²排出権取引を行う
- ③ 共通施設の充実と快適・安全性に配慮した環境整備、及び災害対策の実施・対応
 - ・キャンパスアメニティーの見直し・対応 (設計室等との連携)、及びポスト・コロナに向けてのアメニティー整備 (G)
 - ・学内樹木の伐採を含めた維持・管理の計画見直しと対応
 - ・防火対策推進の継続、防災対策の検討・計画策定
 - ・警備会社の業務内容確認及びその対応
- ④ 運営3年目を迎えた学生寮の管理整備対応 (G)
 - ・設備管理会社との連携、並びに故障個所の修繕対応
 - ・運営委託会社、寮長・寮母との連携対応
 - ・コロナ終息に向けた居住空間としての対応
 - ・学生の入退寮時期でのメンテナンス対応
 - ・管理整備業務のマニュアル化
- ⑤ 業務内容の調整と見直し(G)
 - ・警備業務体制の見直しと計画策定、次年度への実施
 - ・学内備品の貸出・返却方法の見直し・実施
 - ・学内貸出備品のメンテナンス実施
 - ・物品購入方法の継続的見直し
 - ・南側新施設における日常メンテナンスの対応・実施

【人事課】

- ① 評価制度の導入 (I)
 - ・ 教員の評価制度に導入に関する情報収集
- ② 魅力ある職場づくりによる人材の確保 (I)
 - ・ 先輩職員参加による新卒採用の実施
 - ・ 横断型プロジェクト活動の推進
 - ・ 研修制度の見直し
 - ・ 障がい者雇用の推進
- ③ 定期的な異動、評価制度の見直し、専門職などの人事制度の確立 (I)
 - ・ 効果的なジョブローテーションの実施
 - ・ 納得感のある評価制度の構築
 - ・ 専門職及びアソシエイト職の導入効果の検証

【情報推進課】

- ① 学内システム更新や機能追加の調整と検討 (G)
 - ・ 学内システムの現状調査と利用状況の把握
 - ・ 研究室アンケート調査
 - ・ 出席管理システムの更改
 - ・ 統合認証基盤、SSO（シングルサインオン）パッケージの調査
 - ・ 業務システムベンダー統制強化と新規ベンダー開発
- ② ユーザサポート機能の定型化 (G)
 - ・ Web サイトからの情報発信充実
 - ・ 各システム別FAQ作成
 - ・ 他大学システムベンチマーク
 - ・ システム管理の高度化
 - ・ サービスモデルの展開
- ③ 教務系基幹システム更新の調整と検討 (G)
 - ・ EOL 機器の更新と障害管理
 - ・ 保守内容の調整、サードベンダー調査
 - ・ コスト管理

◆財務部

- ① 財務報告の信頼性の確保 (I)
 - ・ 正確な会計処理を行うことにより、財務報告の信頼性向上及び持続性の確保を図る
- ② 適格請求書（インボイス制度）の対応 (I)
 - ・ 2023年10月からのインボイス制度開始に向けて事前準備を徹底し、関連部署と連携して安定した稼働を実現する

- ③ 学納金管理システムの見直し(I)
 - ・既存システムの更新を含め、業務フローの見直しを含めて検討し、業務の効率化を図る
- ④ 財務の継続的な安定と、収入の基盤強化 (I)
 - ・資産運用収入の10%増、寄付金収入の恒常的な2019年度比30%増を目標とする他、90周年事業に向けた寄付金募集を新たに準備する
- ⑤ 予算制度のPDCAサイクルの確立 (I)
 - ・各研究室・部署の申請する予算科目を追加するなどの改訂をし、PDCAサイクルの確立による費用対効果の測定を実施とフィードバックの徹底を図る

◆キャンパス設計室

- ① 上野毛キャンパス再整備と八王子キャンパスとの連携 (G)
 - 「上野毛キャンパス」
 - ・新棟設計調整の実施
 - ・新棟建設のための解体工事およびその準備工事の調整と実施
 - 「八王子キャンパス」
 - ・デザイン棟増築工事の調整・実施
 - ・複合施設(予定)の運用方針に基づいた改修計画の策定
 - ・絵画棟改修の計画・実施調整
- ② 八王子キャンパスでのインフラ等環境の再点検の実施 (G)
 - ・雨水排水の公共下水接続への切り替え実施
 - ・敷地測量図の再整備(測量の実施)
 - ・井戸揚水ポンプの再整備
- ③ 八王子キャンパスの大規模修繕計画作成と実行 (G)
 - ・2023年度は「工芸棟群」実施を予定(7月～11月)
 - ・大規模修繕計画(骨子)について、現況を勘案し見直しを行う
 - ・大規模修繕計画より、次年度の建物について調整を開始する
- ④ 共通施設の充実と利用しやすさの推進 (G)
 - ・2023年度は「工芸棟群」実施を予定(7月～11月)
 - ・キャンパスアメニティーの見直し
 - ・アートテークギャラリー 展示用吊下げ設備の計画と実施

以 上